

和 算 漫 録

村 林 專 之 助

和算漫録と題しましたが、和算に關することでないものもまざるかもしれません。まあ、退屈の時にでも読んで下さい。

1. これまでの言ひ傳へに依りますと、正保二年に攝津の人百川治兵衛が、龜井算二卷を著した事になつてゐます。が、これは百川氏から種々教を受けたる、半ば弟子のやうなる越後の人龜井津兵衛が同書二卷を公にしたものやうです。併し、さうだとしても、龜井算の流祖は、百川氏であると言つてもよいと思ひます。

2. 江戸時代の算學者が、算法を和歌に讀んで、算書に載せたることは、人のよく知つてゐるところでありまして、今村知商の有名なる因歸算歌の列記したる書を始め、かの塵劫記にも數首が載せてあり、其の外二三の書物にも、多い少ないはありますが、皆算法の歌が書いてあります。又古い本で算法起といふのには、計算者を戒めた歌が書いてあります。是れ亦多くの人の知つてゐるところですが、一寸書いて見ることにしませう。「早くともしづかに算を合すべし違へば下手といつてもいはれん」つまり、計算は靜かに落付いてしないと、とんだ間違ひをして、たとひ、早く勘定は出來ても、計算が下手だといはれるといふ意味ですが、まことに實用計算上いゝ戒めです。私は常に學生へ此の歌のことを話してゐる次第です。

3. 今の若い人は多く珠算の割算が出來ないやうです。商業學校を

卒業しても、近頃は割算が出來ないといふ非難歎聲を、實業界の人々から聞いたのも、既に十七八年も前からの話です。この學生から出た人の、出來ないといふことには、種々原因がありませうが、今高等程度の學校に於ける在學中の者の例で言ひますと、多くは珠算の割算をあまり好まないで、歸除法の算法を面倒がつてゐます。勿論之れが出來ない近因であります。實業界に入りて邦人獨特の珠算が出來なければ駄目だと平生言ひ聽かせてゐても、學生の耳へはよくはいらないやうです。洵に残念に思つてゐます。この割算の出來ないことは、教授上否商業教育上の問題であると言つてもよいでせう。以前は割算と云へば、歸除法も商除法もありません。二一天作五にきまつてゐて、皆能く稽古したものです。故に社會的に云へば、四十歳以上の人なら大抵二一天作で出來てゐます。兎に角歸除法でも商除法でも宜しいから、一般に早く割算が出來るやうにしたいものであります。

帷子をまた出して着る殘暑かな